

令和6年度 百々小だより 後期学校評価特別号

【学校教育目標】

自分も友達も大切にし 笑顔あふれる学校
～認め合い 支え合い 高め合える百々っ子～

京都市立百々小学校
校長 山下 博典



◎「よく出来ている」「大体できている」との回答結果

設問 (児…児童 保…保護者 教…教職員)	(%)
児 学校は楽しいですか。	88%
保 子どもは、楽しく学校に行っている。	95%
教 子どもは、楽しく学校生活を送っている。	95%
児 学校のきまりや約束を守っていますか。	91%
保 子どもは、学校のきまりや約束を守っている。	94%
教 子どもは、学校のきまりや約束を守っている。	81%
児 相手に届くあいさつをしていますか。	83%
保 子どもは、明るく元気なあいさつができています。	84%
教 子どもは、明るく元気なあいさつができています。	76%
児 自分や人を大切にしていますか。	94%
保 子どもは、自分や人を大切にしている気持ちや態度が育っている。	91%
教 子どもは、自分や人を大切にしている気持ちや態度が育っている。	86%
児 家でも学校でも時間を守って活動することができますか。	83%
保 子どもは、時間を守って活動している。	78%
教 子どもは、時間を守って活動している。	76%
児 先生や家族に困ったことを相談したり、学校の出来事などを話したりしていますか。	78%
保 子どもは、困っていることや学校の出来事などを家で話している。	83%
教 子どもは、困っていることを相談したり、出来事を話したりしている。	81%
児 百々の地域のことが好きですか。	87%
保 子どもは、百々の地域のよさを感じている。	84%
教 百々の地域のよさを学べる教材・単元づくりをしている。	72%
児 家や学校などで進んで読書をしていますか。	69%
保 子どもは、家で進んで読書をしている。	35%
教 子どもは、学校で進んで読書をしている。	58%
児 自分のめあて(学級目標、学習、生活)に向かって努力をしていますか。	88%
保 子どもは、いろいろな目標に向かって努力している。	78%
教 子どもは、目標をもち、その達成に向けて努力している。	77%
児 家で宿題などの家庭学習をきちんとしていますか。	66%
保 子どもは、宿題などの家庭学習をきちんとしている。	88%
教 子どもは、宿題などの家庭学習をきちんとしている。	71%
児 授業でわかったり、できるようになったりしていますか。	90%
保 子どもは、分かるまで学習に取り組んでいる。	71%
教 子どもは、分かるまで学習に取り組んでいる。	62%
児 人の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと話していますか。	86%
保 子どもは、人の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと話している。	72%
教 子どもは、人の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと話している。	62%
児 学習の準備を自分できちんとして、忘れ物をしないように気をつけていますか。	85%
保 子どもは、学習の準備を自分できちんとしている。	75%
教 子どもは、忘れ物をしないように気をつけている。	57%
児 早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、健康に気をつけていますか。	80%
保 子どもは、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が身についている。	85%
教 子どもは、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が身についている。	72%
児 日頃から外遊びや運動をしていますか。	86%
保 子どもは、日頃から外遊びや運動をしている。	70%
教 子どもは、日頃から外遊びや運動を積極的に行っている。	85%

2学期末に学校評価のアンケートを実施いたしました。その結果と考察をお知らせいたします。これらの結果を参考に今後の学校教育活動にいかしていきたいと思っております。
アンケートにご協力いただきありがとうございました。

＜結果の考察＞

◎学校のきまりについて

＜現状＞

・本校で掲げている「カッコいい百々っ子になるために」の10ヶ条のうち「学習の準備をきちんとする」「時間を守る」「協力してそうじをする」「はきものをそろえる」等は定着しつつあるが、「丁寧な言葉遣いをする」「廊下を歩く」ことに関しては、まだまだ課題が見られる。

＜解決策＞

・「丁寧な言葉遣いをする」ことに関しては、無意識に引き続き身近な大人が(教職員・保護者の方々・地域の方々)手本となり、皆で関わっていく必要がある。子どもが不適切な言動をした時に、その場で適切な指導を行い、それぞれの場面にふさわしい言動がとれるように導いていくことが大切である。

・「廊下を歩く」ことに関しては、走るとどのような危険があるのかを考える機会を設けることが必要であると考えます。「廊下を歩くこと」に関わらず、どのようなことでも、なぜそうするのかを子どもたちが考え、判断できるようにしていくことが大切である。また、ゆとりのある時間割設定を行い、子どもたちが見通しをもって行動できるように工夫することも大切である。

◎学習について(わかるまで取り組む)

＜現状＞

・1学期に引き続き、2学期もほとんどの子どもたちが、授業でわかったり、できるようになったりしていると答えている。保護者、教職員でも1学期と同様の結果となっている。授業では、集中して学習に取り組み、意欲的に発表したり、話し合ったりしている姿がどの学年でも多く見られる。一方でわかるまで学習することをあきらめてしまったり、継続して家庭学習を行うことができなかつたりする児童もいる。

＜解決策＞

・学級児童の実態に合った授業改善を行うことが大切だと考える。同時に子どもたちがしっかりと話を聞くことができるような環境づくりや、学習意欲を高められるような準備を行っておく必要がある。まずは日々の授業において子どもたちの学習に向かう姿勢を育てていく必要がある。それと共に、子どもたちがわからない問題を解く時間を確保する必要もある。日々の授業、宿題での復習、さらには補習学習等で基礎基本の力を伸ばしていきたい。

◎人の話を聞き、自分の考えを話しているかについて

＜現状＞

・児童のアンケート結果では、1学期と比べて2学期の方が、「できるようになってきている」と回答している割合が高い。教職員の結果でも、約20%高くなっており、日々の取組の中で徐々に子どもたちが、人の話を聞き、自分の考えを話すことができるようになってきていることがわかる。引き続き取組を継続していきたい。

＜解決策＞

・本校の取組である学級活動において、意見を出し合い、比べ、まとめるという授業の流れを定着させ、子どもたちが話し合ったり、意見を出し合ったりできる機会を増やす。